

	<h1>みずみどり</h1>
2001年11月15日 第27号	
発行：いたばし水と緑の会 事務局	
年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会 ホームページ http://www.ne.jp/asahi/nature/land/index.htm E-mail : mizumidori@nifty.com	
〒174-0063 板橋区前連町 5-31-7 瀬田方 tel&fax3969-7124	

乗鞍高原・上高地 自然観察と作業体験記



先の総会での本当の自然を見ようという発案が実り、手を入れず保護された自然の観察と、手を加えて維持されている地域の景観維持作業に参加するという貴重な体験をしたのでご報告します。なお、当会の会員でもある環境省の中澤圭一さんを始め、乗鞍高原の「一の瀬の景観を守る会」や地元の皆さんには、作業上のご指導や、快適に過ごせるようご配慮戴いたことなど、大変お世話になりましたことを感謝いたします。

1) 日程 (2泊3日)

一日目：11月9日 7:00 新宿発、12時少し前に乗鞍高原の作業現場に到着、(昼食) 13時から16時過ぎまで白樺などの伐採作業。夕食後意見交換

二日目：午前中は周辺散策、午後は上高地まで移動、星空観察

三日目：午前中明神池まで散策し自然観察、列車待つ間に松本城見物、

2) 参加者：10人

3) 体験作業

現地に到着、車を降りるや否や、長鉦と鋸の組ベルトが全員にわたされ、「木を切り払う作業だが、刃物はよく切れるのでご注意ください」との中沢さんからのお達しがあり、湿地帯を数分歩いて作業の現場に着いた。湿地帯にはイネ科の植物などがまだ青く茂っており、そこそこに小さな流れがあり、水芭蕉も見受けられた。作業場はコケ類が覆った熔岩がゴロゴロあり、大きなうねりのあるところだった。

このように切って欲しいと、一ノ瀬景観を守る会リーグにより、直径20cm位の白樺を、地上1mくらいのところでチェーンソーにより、あっという間に切り倒して見せてくれた。指定された区域に一人あるいは二人組になって散らばり、目当ての木を手鋸と鉦で切り始めたが、鉦も鋸も思いのほかよく切れ、慣れてくると数分で1本切り倒せた。残す木もあるが、今回の狭い作業区域では全て切り払ってよい。倒した木は、主な枝を払うだけでよく、後日一定の長さにチェーンソーで切って搬出する由である。

作業は豪快な伐採と、枝払いとまとめておくちょっと地味な作業の二種類となるが、得手・不得手は自ずと決まり、それぞれが得意な作業をしていたように見受けられた。2時過ぎに小休止がかかったが、あっという間の一時間だった。休んだ後も、疲れを知らぬ元気な作業が続き、4時過ぎに終了の合図があり、日没にはまだ間があり、未練もあったが帰路に着いた。

4) 樹木伐採の理由

一ノ瀬地域は標高1500m程度の亜高山地帯であり、戦後の入植者が放牧をした時期があった。この時代は草原の処々に白樺の木が生えており、つつじ（レンゲ）が咲き乱れる、すてきな高原だった由。時の流れで放置されるようになり、周囲から高木の種が飛来して生い茂り、白樺の林（モミや桜の仲間も散見される）になりかかっているのが現状。

木材では白樺も唐松（なぜか近くでは林野庁がいまだに植林している由）も利用価値がなくなっ



てしまった。そこで地元と環境省がタイアップして、昔の草原に戻すことになった。「一ノ瀬の景観を守る会」がその中心的組織。私たちが参加した翌週には区民総出で今年最後の作業をするとか。私たちのような外からのボランティアも受け入れる。

5) 地上1mでの伐採理由

地上1mものところで伐採す

ることを不思議に思ったが、次のような理由だと説明された。地際で切ると、木は地上部がなくなったことを感知して、すぐ株元からヒコバエを生やすが、1m位高い位置で切ると、地上部があると感知するので芽を出さず、梅雨の雨と夏の高温で木は枯れてしまうのだそうだ。

切った後に出てくるヒコバエや、その後も飛来した種から生える木については、子供達が体験学習として摘み取り作業に参加している、とのこと。

6) その他

a. 自生する樹木は緯度や標高で種類が制限されるが、今回歩いたところは次のようだった。

①乗鞍高原では白樺の林が多いが、善五郎滝のルートではミズナラが圧倒的に多い。

②上高地の標高も1500m位で乗鞍高原と同程度とのことだが、明神池までの間にはモミの仲間(松科)の常緑樹・ダケかんば・ミズナラの大木の林が多く、白樺比較的に少ないようだ。

b. 今回の旅行は、高地へ行くにはやや遅すぎたと考えたが、乗鞍では風もなく穏やかであったので、力仕事や山歩きをするには丁度よい気温で、きれいで冴えた空気が心地よかった。

上高地では、着いた晩から気温が下がった(-5℃?)が、快晴となったので満天の星を眺めた。宿のベランダからだったこともあり、あまりに多い星の数から、星座がわからずじまいであった。翌朝は雪をかぶった焼岳や穂高連峰の眺めがすばらしかった。上高地は15日で道路が閉鎖されるため、今年最後の週末であったためか、凄い人出だったのには一同驚いた次第。

c. 現地では出会った小鳥や動物は次のとおり。

①乗鞍高原地域では、カケス、コガラ、エナガ、シジュウカラ、アカゲラ、ツグミ、カラス(声)など

②上高地地域では、カワガラス、セグロセキレイ、コガモ、マガモ、オシドリ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、トンビなどだが、梓川にいたマガモは人に慣れて餌を求めて川岸に上陸するありさまなのは呆れた。

秋も遅い時季といっても、松本市近辺では紅葉が真っ盛りで、松本城や民家の庭に色濃い紅葉や東京では見られないような、透き通った黄色の公孫樹が見受けられ、高原に行く途中でも、谷間に広葉樹の紅葉と唐松の葉が残っており、道中に秋から冬への季節の変化を見ることが出来た。



ほんの僅かだがお手伝いをした乗鞍高原の、その後も気になるので、今回とは違った季節にもう一度現地を訪ねてみたい思いは、10人同じではないだろうか。最後に、旅行中の切符の手配など一手に担当された番匠さんにお礼を申し上げます。

(猪鼻 昭二)

←切り倒したシラカバの枝に寄生していたヤドリギ

工作もまた楽し 雨で変更した自然発見ウォーキング

10月28日、赤塚公園自然発見ウォーキングはあいにくの雨でした。今年は、ボーイスカウトと一緒にやろうと準備を進めてきたので残念。計画変更して班に分かれてガイドウォーク。参加者は私たちとボーイスカウトと2組の家族。きらきらした露がビーズのようについた枝を見ながらの雨の中のぶらぶら散歩、そしてたっぷりの時間を使って大人も子供も工作したり、実体微鏡をのぞいたりしてのんびりした時間を過ごしました。室内での工作で大西さん持参の電動工具が人気の的でした。

野外のイベントなので、こういうこともあるでしょう。雨だからこそこんなすてきなものに出会える、という風にもっていけたらという声も・・・

工作については、不破さんが「熟年のおじ様たちの手際の良さ、道具類の扱いのかっこよさ、すてきでした」と賞賛された会員の「手の技」を次の世代に伝えていきたいと思います。



工作に使った竹はどこ竹？

公園にある竹はモウソウチク、タケノコを取るための竹で、キメが荒いため昔から竹細工には使われてきませんでした(25号猪鼻さんの記事参照)。今回工作でつけた竹は、大西さんが奥さんの実家からもらってきたマダケと荒川河川敷で管理者に断ってもらってきたシノダケです。公園の中の竹が工作に不向きなのはもったいないと思いませんか。

余談ですが、そのマダケがびかびかできれいだったのには驚きました。というより、すすで汚れた公園の竹から見えてきた東京の大気汚染のひどさに驚いたというべきか。

手の技を伝える作業場がほしい

手仕事は短時間でやっつけるものではないので、時間がたっぷりあったことは工作をするには、よかったことでした。

矢田さんから、ボランティアで子供達にノコギリやナイフの使い方を指導できるように、雨が降っても作業ができる作業場(土間の空間)を行政が用意できないのか、という意見が出ました。

郷土資料館にある古民家も、見るだけでなく、使ってこそ価値があり、長持ちするとか(いろりを使わないと茅葺きの屋根の寿命が短くなる)。また、古い道具も使わせてもらう機会があれば、手の技の勉強になるし。そんな自由な使い方ができるようになればいいのですが。

わくわく ときどき 荒川の一晩

10月6日、荒川の鳴く虫観察会に参加しました。夕方からの観察会なので黄昏時の荒川もいいなあなどと思ってましたが、集合時間はもう真っ暗。土手の階段に座っているとパタパタと目の前や頭上を横切るもの・・・ン?ナニ?・・・ゲッ!コウモリ!手を伸ばせば捕まえられそうなくらい(絶対そんなことないけど)すぐ近く飛んでる。しばらくすると河川敷の方でポワーンとうすじろい影・・・!!

ウソ!ヤダ!もしかして季節はずれのお〇け?なんてはずはなく、先にいらした釣巻さんが虫よせ(?)の為の白い布と電燈(?)をセットしているところでした。一人で冷や汗かいてる間に皆さん集まって鳴く虫さんたちとのご対面です。

ルルル、リリリと単純に書けないくらいのたくさんの虫の声。懐中電灯で草や葉っぱや茎を照らしなんとか姿を見たいと・・・あ!いたいた!なんと2cmぐらいの小さなうす緑色のバッタ、いえいえカンタンです。よーく見ると透き通る2枚のうちわのような羽根。まあ、こんな小さな体であれだけの澄んだ音を出すとは。ちょっとカンゲキです。会えてよかったなあって思っちゃった。

そのあと、けっこうたくさんの虫さんたちに会えたり、みんなの背より伸びたオギの原(林みたいで迷子になりそう)の散歩やタンポコオロギさんとの遭遇、一声鳴いて向こう岸に飛んでいくゴイサギの姿、満潮でひたひたと岸にあたる波の音(あの、ピチャピチャという音。えー、ここ板橋?板橋だよねえって感じ)、そしておまけのケラの鳴き声と、自然満載のひと時でした。

なによりこの夜の暗闇がいつもの河川敷(昼間)とは全く違う景色を作っていました。みんなと歩けばこわくない!です。むしろ不思議で素敵な体験ができます。あやしい探検隊ってかんじで面白かったで一す!(不和 佐和子)

しろうと昆虫採集もおもしろいよ

会の昆虫オタクの釣巻さんが、市民の力で板橋区の(東京中の?)昆虫の実態を調査しまとめたという夢を持って虫を追っかけていることはみなさんご存じでしょう。区内の昆虫の実態を調べるとなれば、調査する人が多い方がより多くのデータが集まります。いたばし水と緑の会会員や昆虫に関心のある人たちが情報を提供することによって、調査に参加・貢献できればいいなあ、という思いがありました。生き物調査シートをみなさんに配布したこともありましたが、あまり情報は寄せられませんでした。しろうとが昆虫の「見かけた情報」を提供することは意外にみずかしいことでした。私が見かけた昆虫の名前を図鑑で調べて報告しても、しろうとの悲しさ、そのまま記録にするわけにはいきません。写真か実物の証拠が必要となります。

以前に不動の滝のそばで腐りかかった大きな虫を拾いました。釣巻さんにみてもらったらミヤマカミキリだったかで、「こいつは〇〇年以來ずっと記録がなく板橋区ではもう絶滅したと思っていた」との話。しろうとの「昆虫死骸調査」も結構役に立つじゃないの、とすっかりうれしくなりました。

今年は、美術館の前のビオトープで活動中にみんなでマルタンヤンマのヤゴの抜け殻を拾いました。その後、滝川さんが拾ったトンボの死骸はヤブヤンマでした。やはり赤塚で、私はタマムシの死骸をひろいました（これはすごくきれいだった）。

虫ではないが最大の拾いものは、ウォーキングの下見観察会で見つけたモグラの死体（1万8千円也で成金趣味の立派な台にのった剥製になった）。こんなかわいいモグラが赤塚の森の地下で生活しているかと思うと感動します。剥製になって多くの人に見てもらい、赤塚の自然を知ってもらうのに役立つでしょう。

拾いものをするようになったのは年のせいかもしれません。トボトボ下を見て歩くことが多くなったのか、よく財布を拾ったり、現金を拾ったりします。これまで見えなかった虫の死骸が見えるようになったのは、私が虫にもお金と同じように価値を置くようになったからか？

寒くなってマンションの階段の壁にじっとしている虫に気づくことがあります。名前を知る由もない地味な虫です。どうしようかと思っただけれど、思い切ってフィルムケースをカパッとつぶせて生け捕りにし、「釣巻さん行き」にしました。生きている虫は必要な採集なのか迷いますが、死骸であればむやみに生き物を殺傷することはありません。

しろうとであっても、一方通行では張り合いがない。あとでどんな虫だったか、何をしていたかなどの情報をフィードバックしてもらえなのが昆虫死骸採集の楽しみでもあります。

（追記）原稿を書いたから、欲を出してまじめに虫を探しました。本格的に寒くなって虫もめっきり減ったみたい。時季はずれの原稿ですみません。暖かくなったら、みなさんも昆虫網がなくてもできる昆虫死骸採集にご協力下さいね。フィルムケース必携。拾ったら釣巻さんか私にご連絡を。

（坂本 郁子）

草原ビオトープ秋の植物調査

10月7日、秋の植物調査をしました。2回目なので夏（8月5日）の調査より、少しなれてきました。夏の植物と入れ替わって違う植物に。今回から、対象地点として草刈りされている場所1区画と柵の中を3区画（1区画は2m四方）を調べました。区画をみんなで囲み、ある植物がどの位の面積比で地面を覆っているか（被度）をみんなで判定するのですが、よその人には私たちが雑草を競りにかけているように見えたでしょう。草原の中央と樹林地に近い方では植物も違います。

種名がわからない株は科名（s p）で記録し、後で花が咲いたり種ができたりしたときに観察をして種を特定していきます。気の長い話ですね。こんなやり方でぼちぼち身近な植物の生活を勉強していくことになりました。どなたでもどうぞ。

再び狸が現れました

我が家の隣の庭で狸を見かけてから一年以上たちますが、9月末再び現れました。それからは連日隣の空家の庭にやってくる。しばらく日当りよい草の上で昼寝をして帰って行きます。

最初に目が合った時はあわてて逃げようとしたのですが、何度も見かけるようになり、「ぼんちゃん」と声をかけると振り向くようになりました。家のトラ猫に会っても平気です。梨など与えても食べようともせず、写真のとおりまるまると肥っています。ちょうど柴犬が肥った位の大きさです。どこかで餌など貰っているのでしょうか。先日上高地ビジターセンターで見た狸の剥製は精悍でスマートで、まるで違う動物のようでした。私の家は前野町ですが、志村坂上の食べ物屋にも狸が現れたと噂を聞きました。普段は何処で寝泊りしているのやら。

昔狸は山の中にいたのに、住む山がなくなり里に下りて人間の残り物を食べて暮らしているのでしょうか？交通事故にあったり、犬の病気のジステンパーにもかかり易いと聴きました。狸も本来の山の中に暮らせる場所があったらいいのに、この辺りには山はありませんから。カラスも狸も住む場所を失ってだんだんと里に下りてくるのでしょうか。

狸、ガンバレ。

（瀬田 政江）



活動のお知らせ

●運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。

12月運営委員会 日時：12月7日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

1月運営委員会 日時：1月4日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

●会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく

日時：1月15日(火)17:30~ 場所：エコポリスセンター

● 赤塚城址草原周辺の観察会・清掃・点検

ウォーキングのコースを一周する観察会とついでにゴミ拾いも。お天気がよければお弁当を食べてから、柵等のメンテナンスの点検や、公園の自然環境について(新しく公園用地になるところもあります)会として提案した方がよいことなども話し合います。

日時：11月25日(日)10:00~14:00

集合場所：赤塚自然池(美術館前)

● 赤塚自然池の冬の準備

落ち葉がどっと落ちて水路が埋まってしまうと、流れが止まってしまうので、水路の上流と下流の落ち葉を取り除く作業をします(上流はそうっとね)。水路下流のどろだめも掃除してザリガニがいればとります。

日時：12月16日(日)10:00~12:00(この日が雨の場合は平日に実施します。平日に参加できる人は坂本までご連絡を)

場所：赤塚自然池(美術館前)

持ち物：汚れてもよい服装、タオル、ゴム手袋(軍手では濡れます)

● 白子川ウォッチング

日時：11月23日(祝)9:30~15:30

集合場所：白子コミュニティセンター(熊野神社横)。成増駅から徒歩15分

内容：東埼橋~新河岸川合流点・荒川までウォッチング、午後は結果をまとめます。

雨天も実施

持ち物：弁当、飲み物、筆記用具、暖かい服装で、保険料100円

連絡先：須貝(048-464-5545)または坂本(3968-9760)

● 予告「ハチの巣調査」

冬になるとアシナガバチは巣からいなくなってしまう、翌年同じ巣を使うことはありません。環境保全課では使われなくなったアシナガバチの巣を集めて、地域の自然環境を調査する予定です。お正月前に取り払われそうなハチの巣は確保しておいてください。